

多面的アプローチによる
発達と発達障害の
メカニズムの探求と実践



日本発達神経科学会 第13回学術集会

The 13th Annual Meeting of Japan Society for Developmental Neuroscience

2024年 **11月9日(土)・10日(日)**

国立障害者リハビリテーションセンター学院 1階講堂

大会長

和田 真 [国立障害者リハビリテーションセンター研究所]

基調講演

北澤 茂 [大阪大学大学院 生命機能研究科 / 医学系研究科]

特別講演

大泉 匡史 [東京大学大学院 総合文化研究科]

シンポジウム

人間性の初期発達と「超身体性」
感覚の多様性と発達障害
発達障害研究における倫理

<https://jsdn.jp/meeting-information/13th-2024>

共催：東京大学次世代知能科学研究センター、
科学研究費補助金 基盤研究 (S)「脳の一般原理に基づく認知機能の多様性発生機序の理解と発達障害者支援」(代表：長井志江、分担：和田 真)
連絡先：日本発達神経科学会第13回学術集会 運営事務局 E-mail: jsdn13th2024@gmail.com



会場周辺地図

西武新宿線「航空公園駅」もしくは「新所沢駅」下車
両駅とも東口から点字ブロックに沿って徒歩約15分、タクシーで約5分

所要時間

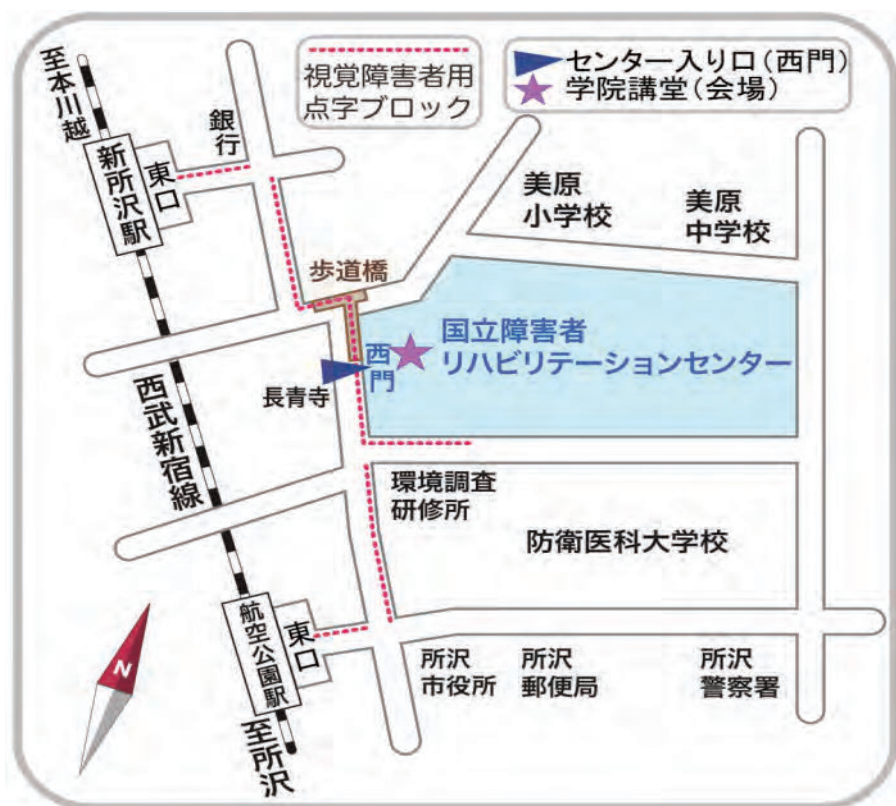
「東京駅」から「航空公園駅」まで

- ・JR山手線「池袋駅」または「高田馬場駅」経由：約1時間
- ・東京メトロ丸の内線「池袋駅」経由：約1時間

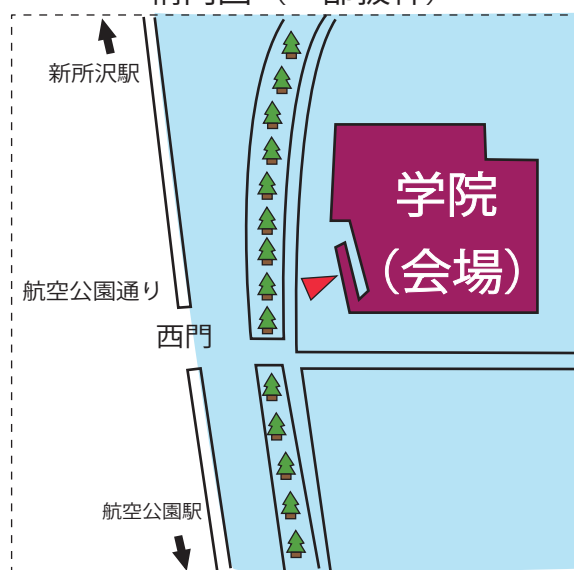
「羽田空港」から「航空公園駅」まで

- ・京浜急行「品川駅・高田馬場駅」またはJR山手線「池袋駅」経由：約1時間30分

国立障害者リハビリテーションセンター周辺地図



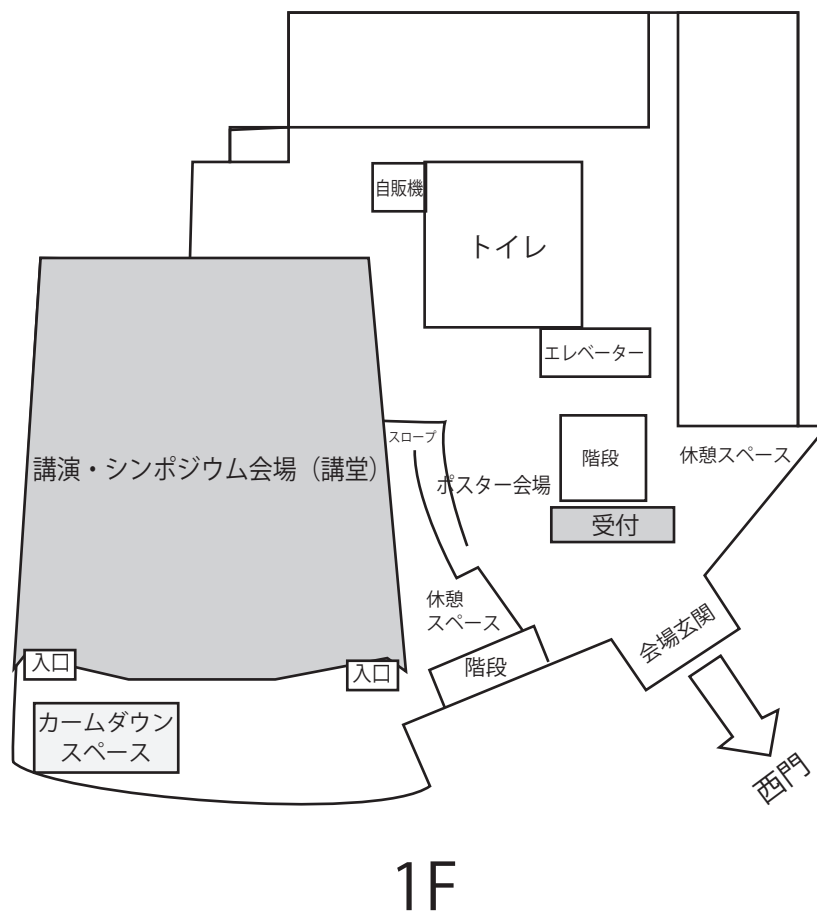
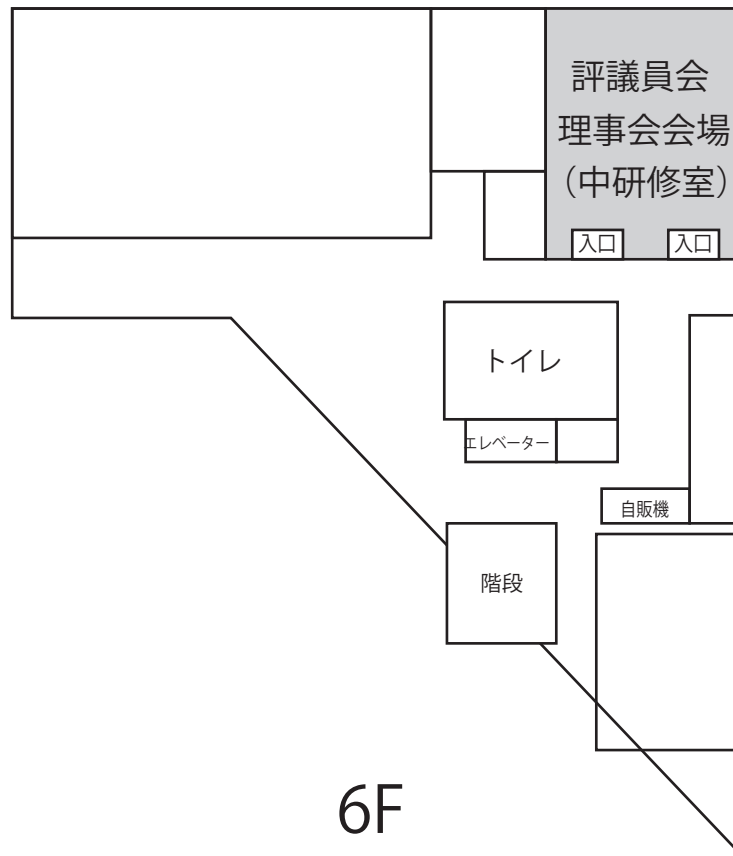
国立障害者リハビリテーションセンター構内図(一部抜粋)



学院入口



会場案内図



日程表

11月9日(土) 第1日目		
	講演会場(1F 講堂)	その他
9:00		
10:00		
11:00		
12:00		
	12:30~12:40 開会挨拶	
13:00	12:40~13:40 特別講演 「クオリア構造パラダイム：発達過程への応用に向けて」 東京大学大学院総合文化研究科准教授 講演：大泉 匡史	
	休憩 (10分)	
14:00	13:50~15:50 シンポジウム1 「人間性の初期発達と『超身体性』」 司会：國吉 康夫 演者： 鹿子木 康弘(大阪大学) 石津 智大(関西大学) 大黒 達也(東京大学) 中嶋 浩平(東京大学)	
15:00		
16:00		15:50~16:50 ポスターセッション1 1F ロビー
	休憩 (10分)	
17:00	17:00~18:00 基調講演 「ヒトとAIの注意の『発達』を比較する」 講演：北澤 茂 大阪大学大学院生命機能研究科 / 医学系研究科教授	
18:00		
19:00		18:30~20:00 意見交換会 レストラン 「新所沢クラフトダイニング」
20:00		

11月10日(日) 第2日目		
	講演会場(1F 講堂)	その他
9:00		
	9:30~9:45 国リハ発達障害情報・支援センターの紹介	
	休憩 (5分)	
10:00	9:50~11:50 シンポジウム2 「感覚の多様性と発達障害」 司会：井手 正和 演者： 中島 美保(理化学研究所) 柏野 牧夫 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所) 岩永 竜一郎(長崎大学) 熊仁美(NPO 法人 ADDS)	
11:00		
12:00	11:50~12:50 昼休み	
13:00		12:50~13:20 理事会※ 13:20~13:50 評議員会※
		12:50~13:50 ポスターセッション2 1F ロビー
	休憩 (10分)	
14:00	14:00~14:20 総会	
15:00	14:20~16:20 シンポジウム3 「発達障害研究における倫理」 司会：和田 真 演者： 熊谷 晋一郎(東京大学) 綾屋 紗月(東京大学) 大島 都葉(千葉大学) 酒井 彌生(よつぱくらぶ) 和田 恵(桜美林大学)	
16:00		
	16:20~16:30 ポスター賞発表と授賞式	
	16:30~16:40 閉会挨拶	
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		

※ 理事会・評議員会は学院6F 中研修室にて行います

発達神経科学会第 13 回学術集会の開催によせて

日本発達神経科学会の第 13 回学術集会は、2024 年 11 月 9 日（土）から 11 月 10 日（日）に国立障害者リハビリテーションセンターの学院講堂で開催させていただくことになりました。発達や発達障害を理解するには、様々な領域の様々な視点からのアプローチが必要不可欠ですが、本学会は、工学・医学・心理学・生物学など様々な領域の研究者が集うのが特徴です。そこで本大会のテーマは「多面的アプローチによる発達と発達障害のメカニズムの探求と実践」とさせていただきます。その上で、基調講演として大阪大学の北澤茂先生に「ヒトと AI の注意の『発達』を比較する」、特別講演として東京大学の大泉匡史先生に「クオリア構造パラダイム：発達過程への応用に向けて」というタイトルで講演いただきます。シンポジウムは、「人間性の初期発達と『超身体性』」、「感覚の多様性と発達障害」、「発達障害研究における倫理」という 3 つのテーマを設定しました。

シンポジウムのテーマにも関係しますが、発達研究の立案・遂行には、発達障害の当事者の視点が欠かせないと考えており、本大会では複数の当事者の先生方に参加いただきます。当事者の中には感覚過敏をお持ちの方が多いことを考え、会場の照明は強くしないようにして、拍手も控えめにするといったお願いをさせていただいております。その上で、想定参加者の 3 倍以上を収容できる講堂を使用することにしました。現在も各種感染症の流行も散発的に続いており、感染対策としても有効に働くのではないかと考えています。今回、想定を大きく上回る参加登録をいただいておりますが、会場の広さも相まって、少し寂しさを感じる方もいらっしゃるかもしれません。講堂では一人一人のスペースを広く確保できますので、ぜひリラックスして、講演と議論を楽しんでいただけると幸いです。一方、感覚の問題への対応という点では、まだまだ至らぬ点が多いと思います。例えばポスター会場では反響音から聞きづらさの問題などが生じる可能性があります。休憩スペースやカームダウンスペースなども用意しましたので、活用いただけると幸いです。

今回の大会は、ポスターボードのレンタル以外は、ラボメンバーの皆さんに手伝っていただきながら、手作りで準備してきました。準備、開催にあたり事務局を引き受けていただいた石井亨視さん、様々な準備を手伝ってくださったラボメンバーの皆さんに感謝させていただきます。また共催にあたりご尽力くださった東京大学の國吉康夫先生・金沢星慶先生、長井志江先生と研究室の方々に感謝させていただきます。

所沢周辺は、宿泊施設も少なく、施設の周囲に飲食店が多いとはいええないなどご不便をおかけすることもあるかもしれません。また、手作りの大会ということもあって、至らぬ点もあるかもしれませんが、大会を楽しんでいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

和田 真

日本発達神経科学会 第 13 回学術集会 大会長

参加者へのご案内

● テーマ「多面的アプローチによる発達と発達障害のメカニズムの探求と実践」

● 開催概要

- ・ 会期：2024年11月9日（土）・10日（日）
- ・ 会場：国立障害者リハビリテーションセンター学院講堂
- ・ 〒359-8555 埼玉県所沢市並木4丁目1番
- ・ 大会長：和田 真 国立障害者リハビリテーションセンター研究所
- ・ 開催形式：現地開催

● 参加受付について

1. 受付日時

11月9日（土） 12:00～17:00	場所 1階ロビー
11月10日（日） 9:00～15:00	

2. 参加費

参加区分		東京大学次世代知能科学研究センター構成員	その他
学会 (不課税)	一般	8,000円	10,000円
	学生	4,000円	5,000円
意見交換会	一般	5,000円	
	学生	4,000円	

3. 受付方法

事前参加登録がお済みの方

- ・ 受付時に登録完了メール画面または完了メールを印刷した紙を必ずご提示ください。
- ・ ネームカード（参加証）をお渡しいたしますので、記名の上で着用ください。
- ・ 領収データは、参加登録に用いた Peatix のサイトからダウンロード / 印刷できます。

当日受付の方

- ・ 参加登録票をご記入後、受付にご提出ください。
- ・ 受付にて参加費をお支払いください。（現金のみ）
- ・ ネームカード（参加証）をお渡しいたしますので、記名の上で着用ください。
- ・ 領収書も受付時にお渡しします。

● ご来場の皆様へのお知らせ

- ・ 会場内では、可能な範囲でマスクの着用にご協力ください。
- ・ 突発的・大きな音が気になる方がいらっしゃいます。拍手は控えめにお願いします。
- ・ カームダウンスペース利用や移動介助などを希望される方は、スタッフにお申し出ください。

● 意見交換会について

以下の通り意見交換会を開催いたしますので、是非ご参加ください。

- ・ 日時：11月9日 18:30 - 20:00
- ・ 会場：レストラン「新所沢クラフトダイニング」

● プログラム・抄録集について

学会会場にてプログラムと抄録集を配布します。HPでもご覧になれます。

シンポジウム・講演演者へのご案内

● プレゼンテーション

- ご自身の PC でのご発表をお願いします。
- 外部出力が可能であることを、必ず事前にご確認ください。
- バックアップ用データとして、USB フラッシュメモリを必ずご持参ください。
- 発表のスライドは 16:9（ワイド）、4:3（スタンダード）のどちらでも差し支えありません。
- 会場に用意するケーブルコネクタの形状は HDMI です。この形状に変換するコネクタが必要な場合は、必ずご持参ください。また、AC アダプターも必ずご持参ください。
- 発表は舞台上にセットされているレーザーポインターを使って、ご自身で操作してください。
- PC を持参されない場合は、学会事務局で貸し出しますので受付でお申し出ください。
- 貸し出し PC の OS は Windows11Pro、使用ソフトは Windows 版 Microsoft PowerPoint2019 です。

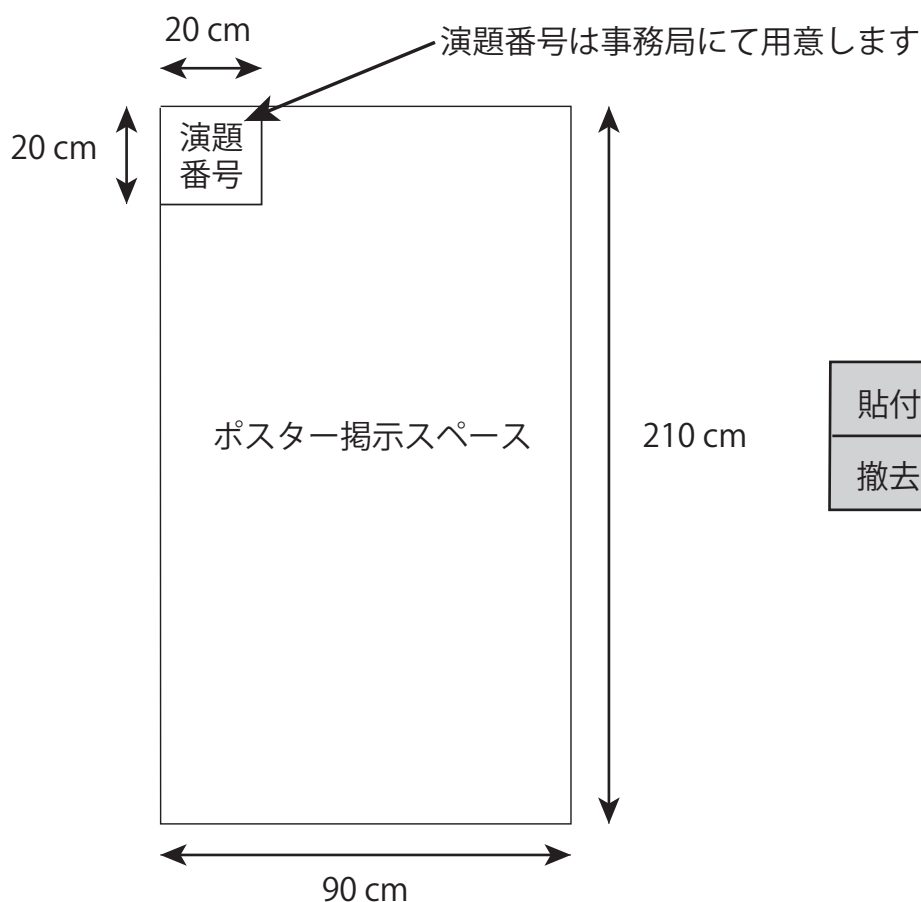
● 会場での PC 動作確認とデータ提出

- ご自身の PC で発表される場合は出力チェックをしますので、ご発表前の休憩時間に PC を演台までご持参ください。
- 学会事務局で準備した PC を使って発表される場合は、USB フラッシュメモリに保存したデータをご発表の 30 分前までに受付にご持参ください。

ポスターセッションのご案内

● 掲示について

- ポスターパネルの大きさは下の図の通りです。
- ポスターパネル左上に、運営事務局が準備した演題番号表示があります。
- パネル内に収まるサイズであれば掲載形式は問いません。



貼付	9日(土) 12:00 ~
撤去	10日(日) ~ 17:00

● 発表について

- 該当のポスターセッション時間になりましたら、ご自身のポスターパネルの前に立ち質問・討論に応じてください。
- 厳密でなくて構いませんが、奇数番号の方は前半、偶数番号の方は後半を中心に発表をお願いします。
- ポスター2日目は、会場を巡っていただき、自由に議論を交わしてください。どちらかしか来られない場合、来られる日に発表いただければ差し支えありません。
- ポスターセッションの座長はおりません。
- ポスターパネルには押しピンを準備しています。
- ポスターの貼付、撤去は上記時間内にご自身で行ってください。撤去時間を過ぎても提示されているポスターは、事務局にて破棄させていただきます。
- 参加者の投票により優秀ポスター賞を決定します。

プログラム

11月9日（土） 第1日目

- 12:30～ 開会挨拶 講堂
和田 真(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
- 12:40～ 特別講演「クオリア構造パラダイム：発達過程への応用に向けて」 講堂
演者：大泉 匡史(東京大学大学院総合文化研究科 准教授)
座長：長井 志江
(東京大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構)
- 13:40～ 休憩(10分間)
- 13:50～ シンポジウム1「人間性の初期発達と『超身体性』」 講堂
企画/司会/話題提供：國吉 康夫(東京大学)
S1-1「前言語期乳児における正義感」
鹿子木 康弘(大阪大学)
S1-2「ネガティブ情動と美的体験から社会性へ」
石津 智大(関西大学)
S1-3「音楽の美感に関わる身体知」
大黒 達也(東京大学)
S1-4「自発性の種としての身体について」
中嶋 浩平(東京大学)
- 15:50～ ポスターセッション1 1Fロビー
- 16:50～ 休憩(10分間)
- 17:00～ 基調講演「ヒトとAIの注意の『発達』を比較する」 講堂
演者：北澤 茂(大阪大学大学院生命機能研究科/医学系研究科 教授)
座長：和田 真(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
- 18:30～ 意見交換会 新所沢クラフトダイニング
20:00

11月10日（日） 第2日目

- 9:30～ 国立障害者リハビリテーションセンター発達障害情報・支援センターの紹介 講堂
山脇 かおり
(国立障害者リハビリテーションセンター企画・情報部発達障害情報・支援センター長)
- 9:45～ 休憩(5分間)
- 9:50～ シンポジウム2「感覚の多様性と発達障害」 講堂
企画：井手 正和・和田 真(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
司会：井手 正和(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
S2-1「脳内ノイズフィルタリング回路の解明とその応用」
中島 美保(理化学研究所)
S2-2「自閉スペクトラム症における聴覚情報処理の特性」
柏野 牧夫(日本電信電話株式会社 コミュニケーション科学基礎研究所)
S2-3「神経発達症児の感覚刺激への反応特性と支援」
岩永 竜一郎(長崎大学)
S2-4「早期発達支援における感覚の評価と支援～応用行動分析学に基づく実践～」
熊 仁美(特定非営利活動法人 ADDS)
- 11:50～ 昼休み
- 12:50～ ポスターセッション2 1Fロビー
- 13:50～ 休憩(10分間)
- 14:20～ シンポジウム3「発達障害研究における倫理」 講堂
企画/司会：和田 真(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
S3-1「当事者研究と共同創造」
熊谷 晋一郎(東京大学)
S3-2「研究における当事者との共同を認識的不正義の観点から考える」
綾屋 紗月(東京大学)
S3-3「研究者はどのように自らの研究の偏見に気づくことができるか
ー自閉スペクトラム症の研究から考えるー」
大島 都葉(千葉大学)
話題提供「研究参加する際に望むこと、実施する際に気をつけること」
酒井 彌生(所沢・発達障害児者を支援する会「よつばくらぶ」)
和田 恵(桜美林大学)
- 16:20～ ポスター賞授賞式 講堂
- 16:30～ 閉会挨拶 講堂
16:40 國吉 康夫(東京大学)

ポスター発表

ポスターセッション演題一覧

- P-1 当事者研究体験の意味づけ：グループインタビューによる検討
○勝谷 紀子
東京大学
- P-2 ADHD当事者の服薬経験をめぐる語りの検討
○山口 莉絵
東京大学 教育学部 総合教育科学科
- P-3 食生活の見直しによるASD当事者の感覚過敏改善の経験
○片岡 聡
NPO法人 リトルプロフェッサーズ
- P-4 ASDの認知機能改善を目的とした介入に関する文献調査
○米田 恵子
国立障害者リハビリテーションセンター研究所
- P-5 発達障害者の聴覚過敏性を緩和する聴覚フィルタ設定を算出するAIシステム
○市川 樹
国立障害者リハビリテーションセンター研究所 脳機能系障害研究部 発達障害研究室
- P-6 発達障害者のための支援技術：主要なデータベースと研究動向
○清野 絵
国立障害者リハビリテーションセンター研究所
- P-7 ASD者の間投助詞・終助詞「ね」使用の特徴
—コーパス言語学の手法に基づいて—
○鈴木 あすみ
国立障害者リハビリテーションセンター研究所, 東北大学大学院
- P-8 質問紙を用いたASD者の感覚の困りごとについての実態調査
○後藤 瑞甫
国立障害者リハビリテーションセンター研究所 脳機能系障害研究部 発達障害研究室
- P-9 ADHD特性と生活場面での疲労感の関連
○仲田 真理子
筑波大学 行動神経内分泌学研究室
- P-10 聴覚刺激の構文構造的特性と聞き手の感覚特性が情動反応に及ぼす影響
○湊谷 麻衣子
東京大学大学院 情報理工学系研究科
- P-11 乳児における「交代」に関する理解と評価
○田 子健
東京大学大学院 総合文化研究科
- P-12 幼児期の巧緻性—ひも通しの操作性と運動能力検査の関係—
○宇田 あかね
京都大学 人間・環境学研究科

-
- P-13 Histogram Analysis on Infant's Day-long Motion Recordings Shows Convergence of Individual Differences with Age Increases
○Jiarui Li
The University of Tokyo, IRCN
- P-14 定型発達成人における道具の身体化の特徴：
Virtual Realityを用いた評価ツールでの検討
○石井 亨視
国立障害者リハビリテーションセンター研究所 脳機能系障害研究部 発達障害研究室
- P-15 触覚を介したフィードバックによる乳児の内受容感覚の測定
○玉田 優衣
慶應義塾大学大学院 社会学研究科
- P-16 自閉スペクトラム症者の音像定位に関する検討
○佐藤 彩
国立障害者リハビリテーションセンター 脳機能系障害研究部 発達障害研究室
- P-17 Bodily maps of nostalgia in mothers while listening to children's songs
○Rina TABUCHI
Next Generation Artificial Intelligence Research Center,
Graduate School of Information Science and Technology, The University of Tokyo
- P-18 協調の程度は事前信念の強さで決まるか？
○中田 星矢
東京大学 国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構
- P-19 音楽予測に基づく身体感覚マップの生涯変化
○田中 政輝
東京大学大学院 情報理工学系研究科 次世代知能科学研究センター
- P-20 Adaptation aftereffects in facial emotion recognition:
A comparison of static and changing facial expressions
○Kevin Widjaja
国立障害者リハビリテーションセンター研究所 脳機能系障害研究部 発達障害研究室,
静岡大学 自然科学系教育部 情報科学専攻
- P-21 Gaze synchrony among adults with autism spectrum disorder
○Von Ralph Dane Herbuela
International Research Center for Neurointelligence (IRCN), The University of Tokyo
- P-22 Effect of Temporal Contingency on Toddlers' Word Learning:
A Gaze Crossing Experiment
○Youtao Lu
WPI-IRCIN, The University of Tokyo
- P-23 親子の脳の類似性と行動の類似性の関連
○松平 泉
東北大学 学際科学フロンティア研究所, 東北大学 スマート・エイジング学際重点研究センター

-
- P-24 脳波エントロピー解析による
ASD・ADHD特性に関連する局所的な神経結合性の検討
○宮本 博行
京都大学 人間・環境学研究科
- P-25 自閉スペクトラム症における脳波コヒーレンス解析
○Ryan O'Heron
京都大学 人間・環境学研究科
- P-26 脳波とNIRSによる小脳の同時計測に関する検討
○西田 駿輝
京都大学 人間・環境学研究科
- P-27 声に対する脳反応が示す性別差
○粕谷 美里
東京都立大学 人文科学研究科 言語科学教室
- P-28 親のマルトリートメント被害と子どもの白質構造の関連
○山口 涼
東北大学 大学院医学系研究科, 日本学術振興会
- P-29 体動性活動に対するPolyI:Cの影響
○荒田 晶子
兵庫医科大学 医学部 生理学・生体機能部門
- P-30 美感の生物力学モデル
○菅野 暁
Rugby School
- P-31 Neural tracking as a correlate of auditory statistical learning in individuals with and without developmental dyslexia
○Hanna RINGER
Next Generation Artificial Intelligence Research Center,
Graduate School of Information Science and Technology, The University of Tokyo
- P-32 Hyper Networkベースの神経生理・行動統合モデリング
○村田 琉晟
慶應義塾大学大学院 理工学研究科
- P-33 能動的情報収集の自由エネルギー原理に基づく構成論的研究
○横澤 理子
慶應義塾大学理工学部
- P-34 相互作用によって生じる決定論的カオスにおける統合情報量
○松野 紘大
早稲田大学 基幹理工学研究科

-
- P-35 注意状態に対応する心拍・呼吸・脳波データの生成モデル
○品川 和志
慶應義塾大学 グローバルリサーチインスティテュート,
国立精神・神経医療研究センター神経研究所 疾病研究第七部
- P-36 Multi-system model analysis for interoceptive signals regulation under autonomic nervous system (ANS) dysfunction
○Ruichen Li
International Research Center for Neurointelligence (WPI-IRCN), The University of Tokyo
- P-37 ASDの対人距離感変調：
ニューラルネットワークモデルによる低次神経処理の影響の解明
○宮野 ゆりあ
国立精神・神経医療研究センター, 東京農工大学
- P-38 大規模言語モデルから探る精神疾患の因子構造：
症候群的共起性と意味的類似性の比較分析
○宗田 卓史
国立精神・神経医療研究センター, 東京大学
- P-39 解剖学および生理学的データに基づく精密な全身筋骨格マウスモデルの開発
○大澤 将輝
早稲田大学大学院 基幹理工学研究科
- P-40 自由エネルギー原理に基づいた
ウィスコンシンカード分類課題の計算論的モデリング
○後藤 大毅
早稲田大学 基幹理工学研究科
- P-41 Heavy and sparse distributions for modeling human behavior
○Lingwei Zhu
東京大学 ニューロインテリジェンス国際研究機構